東日本大震災 10 年目の節目のトークイベント
「残像と気配　3.11 からの東北芸工大」を 3 月 12 日から YouTube で配信します

東北芸術工科大学（学長：中山ダイスケ）では、東日本大震災から 10 年を迎え、震災当時を振り返り、そして、未来を考える時間を共有するため、トークイベント「残像と気配」を YouTube で配信します。

トークは 3 部構成で、1 部は震災当時、本学学長だった根岸吉太郎理事長と、本学美術科彫刻コース卒業生で 10 年前に石巻市で倒壊した家屋から 9 日ぶりに祖母と救出され「奇跡の生還」と報じられ、現在は地元で震災の語り部としての活動を行う阿部任（あべ・じん）さんの対談。第 2 部、第 3 部は、中山ダイスケ学長と、本学の各分野を代表するクリエイターによるクロストークを動画配信します。
3.11 以降、クリエイターたちが何を思い、芸工大が何をしてきたか、震災から 10 年が過ぎ、世界中が新型コロナウイルスの影響を受けている社会において、芸工大が何を目指していくのかをテーマに、トークを展開します。
左記リンクより動画へアクセスできます。 https://www.tuad.ac.jp/2021/03/92099/

「残像と気配　3.11 からの東北芸工大」
「残像」とは、次第に薄らいでいきながらも、確かに残るあの大震災の傷痕。（鼻の奥に残る匂い）
「気配」とは、大震災やパンデミックを通じて動き始めた、新しい世界の形。（鼻先に薫る気配）
大震災は、その後の原発事故を機に今もなお間接的被災者を増やし続けています。支援や救済もままならないままに、未来の光を東京オリンピックに託した日本社会は、新型コロナの世界的流行によってその歩みを止められています。あの時東北芸工大は何を感じ、その後の東北芸工大は何をしてきたのか？
あの日のこと、3.11 から現在、そして未来について、それぞれの活動で 3.11 に影響を受けたクリエイターが、教育現場から語ります。

〇第 1 部登壇者
根岸吉太郎・本学理事長／阿部任・㈱街づくりまんぼう（石ノ森萬画館勤務、本学卒業生）
〇第 2 、 3 部登壇者
中山ダイスケ（本学学長）／大学院芸術工学研究科長／アーティスト）／竹内昌義（建築・環境デザイン学科長／建築家）

お問い合わせ 東北芸術工科大学 企画広報課 TEL:023-627-2246（平日 10:00～17:00）